

2 俘虜法典編纂問題

464

昭和4年3月18日

田中外務大臣より
在本邦スイス国公使宛

赤十字条約改正および俘虜条約制定に関する
国際会議開催に対する我が方意見

付記一 昭和四年二月二一日付在本邦スイス国公使より

り田中外務大臣宛第XIII 22号

右会議に対する我が方意見要請

二 昭和四年三月条約局

右会議開催に至る経緯

条一第七号

Tokio, le 18 mars 1929.

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excellence de sa lettre no. XIII. 22, datée du 21 février dernier, relative à la Conférence convoquée en vue de revision de la Convention du 6 juillet 1906 pour l'amélioration du

sort des blessés et malades dans les armées en campagne ainsi qu'en vue de l'élaboration d'un code sur les prisonniers de guerre.

Je m'empresse de Vous communiquer ci-dessous l'avis du Gouvernement Impérial à ce sujet :

1. Le Gouvernement Impérial ne voit aucune objection à ce que les deux projets de convention soient mis en délibération.

On pourrait admettre que les deux projets doivent contenir par leur nature, l'un et l'autre des dispositions détaillées ; mais s'ils entrent dans des prévisions trop minutieuses, il est à craindre qu'il n'en résulte une difficulté d'adaptation aux circonstances. Il est donc nécessaire que les projets soient simplifiés autant que possible ; il vaudrait mieux alléger, entre autres, les dispositions spéciales concernant les officiers, ainsi que les dispositions sur l'installation des dépôts de

prisonniers de guerre, sur l'hygiène dans ces dépôts, sur la nourriture et l'habillement, etc. dans le projet d'un code sur les prisonniers de guerre.

2. Le Gouvernement ne voit aucun inconvénient à la participation à la Conférence du Comité international de la Croix-Rouge et de l'Ordre Souverain de Malte.

3. Le Gouvernement estime qu'il conviendrait de soumettre, en outre, si cela est possible, à l'examen et aux délibérations la Convention pour l'adaptation à la guerre maritime des principes de la Convention de Genève et la Convention sur les bâtiments hospitaliers. Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances réitérées de ma haute considération.

signature de Ministre.

(右仮訳)

以書翰啓上致候陳者客月二十一日付第XIII 22号貴翰ヲ以テ戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百六年七月六日ノ条約改正及俘虜ニ関スル法典制定ヲ目的トスル国際會議ニ関シ御申越ノ趣敬承致候

本件ニ関スル帝国政府ノ意見左記ノ通ニ有之候

一、二条約案トモニ議題トシテ審議スルコト差支ナシ

但シ右二案トモ其性質上詳細ニ規定シ置クコトハ一面必要ナルヘシト雖モ余リニ細目ニ亘リテ規定シ之カ適用ニ際シ却テ實際ニ合セサルカ如キ結果ヲ生スルノ虞アルヲ以テ成ルヘク条約案ヲ簡單ナラシムルノ要アルヘク就中俘虜ニ関スル法典案中俘虜収容所ノ設備、衛生、栄養、被服、将校ニ関スル特定事項ノ如キハ一層緩和セシムルヲ可トス

二、赤十字国際委員会及Ordre Souverain de Malteノ會議参加方差支ナシ

三、出来得レハ「ジュネーヴ」条約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル条約及病院船ニ関スル条約ヲモ調査審議スルヲ適當ト認ム

右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

(付記一)

敬具

XIII. 22

Tokio, le 21 février 1929.

Monsieur le Baron,

Son Excellence
Monsieur le Baron Gichi Tanaka
Ministre des Affaires étrangères etc., etc., etc.,

(付記二)

千九百六年ノ「ジュネーヴ」条約改正及俘虜ニ関スル法典制定ヲ目的トスル国際会議

説明書

一

一、一九二二年ノ春「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル第十回赤十字国際総会ハ戦地ニ於ケル軍隊ノ傷者病者ノ状態改善ニ関スル一九〇六年七月六日ノ「ジュネーヴ」条約ノ改正案ヲ採択シ赤十字国際委員会ヲシテ右案ヲ「ジュネーヴ」条約加盟国ノ各政府ニ通告セシメ其意見ヲ求メシメタリ

同時ニ該総会ハ列国政府ニ於テ俘虜ニ関スル条約締結方ノ希望決議ヲ為シ右条約ノ基礎トナルヘキ原則ヲ定メ而シテ赤十字国際委員会ヲシテ右原則ヲ「ジュネーヴ」条約加盟国ニ通告セシメタリ

Par note No. 28/T2, Votre Excellence a bien voulu, le 4 décembre 1928, me faire savoir qu'après avoir pris l'avis des autres Ministères intéressés, Elle me communiquerait la réponse du Gouvernement Impérial relative à la Conférence diplomatique qui se réunira à Genève, au mois de juin prochain, en vue, d'une part, de reviser la Convention du 6 juillet 1906 pour l'amélioration du sort des blessés et malades dans les armées en campagne et, d'autre part, d'élaborer un code sur les prisonniers de guerre.

J'ai l'honneur de porter à la connaissance de Votre Excellence que j'attacherais le plus grand prix à pouvoir renseigner mon Gouvernement sur les intentions du Gouvernement Impérial en ce qui concerne la Conférence dont il s'agit.

Veuillez agréer, Monsieur le Baron, les assurances de ma plus haute considération.

Le Ministre de Suisse :

E. Traversim (signé)

二、右ニ拠リ赤十字国際委員会ハ一九二一年四月十五日付

ヲ以テ回章ヲ発シ各国政府ニ対シ「ジュネーヴ」条約改正案並俘虜ニ関スル法典制定ニ関スル第十回赤十字国際総会ノ決議ヲ通告セリ

次テ同委員会ハ一九二二年六月二十六日第二回回章ヲ以テ各国政府ニ向ヒ(一)「ジュネーヴ」条約改正案ニ関スル意見並(二)俘虜ニ関スル法典制定ノ可否及(三)右法典制定ヲ「ジュネーヴ」条約改正会議ニ於テ討議スルコトノ可否ヲ問合セタリ

三、右ニ関シ各国政府ハ(一)(二)共ニ賛意ヲ表セリ

四、之ニ勢ヲ得テ赤十字国際委員会ハ二ツノ委員会ヲ組織シ一ヲシテ「ジュネーヴ」条約改正案ヲ審議セシメ他ヲシテ俘虜ニ関スル法典案ヲ作成セシメタリ該委員会ハ右法典案ノ作成ニ当リ大戦中締結セラレタル条約、各国政府及各国赤十字社ノ意見ヲ参考トセリ

五、一九二三年ノ夏開催セラレタル第十一回赤十字国際総会ハ別ニ新ナル「ジュネーヴ」条約改正案ヲ採択セリ但シ右案ハ第一案ト大差ナシ

該総会ハ又赤十字国際委員会ニ依リ作成セラレタル俘虜

ニ関スル法典案ヲ採択セリ

六、茲ニ於テ第十一回赤十字国際総会ハ「ジュネーヴ」条約改正案及俘虜ニ関スル法典案ヲ瑞西国政府ニ移牒シ適当ノ時機ヲ見テ国際会議ヲ召集センコトヲ希望セリ

二

瑞西国政府ノ意見ニ從ヘハ

(イ)「ジュネーヴ」条約改正案ハ原条約ト大差ナク単ニ多少ノ修正及追加ヲ為シタルノミ而モ右修正及追加モ長ク討論シ尽サレタルモノナレハ右改正案ハ略々完全ニ近キモノナルモ

(ロ)俘虜ニ関スル法典ハ最初ノ企ニシテ且複雑ニシテ時間ノ都合上第十一回赤十字国際総会ニ於テ詳細ニ討議セラレサリシヲ以テ未タ準備のナル法案ノ域ヲ脱セスト雖モ尚法典編成ノ基礎ト為ス二十分ト言フヘシ

從ツテ「ジュネーヴ」条約改正ハ最早長時間ノ論議ノ必要ナカルヘキヲ以テ之ノミニテ国際会議ヲ開ク必要ナシ故ニ俘虜ニ関スル法典制定ヲモ合セテ一ノ国際会議ヲ召集スルヲ便トスヘシ

三

一、大正十四年二月二十七日在京瑞西国代理公使ハ書翰ヲ以テ帝國政府ニ対シ(一)千九百六年七月六日ノ「ジュネーヴ」条約ノ改正ヲ目的トスル會議ニ参加スヘキヤ(二)俘虜ニ関スル法典制定ニ主義上協力スルノ意向ヲ有スルヤ(三)「ジュネーヴ」条約ノ改正案ヲ議スヘキ外交會議ニ俘虜ニ関スル法典ノ制定ヲモ委任スルコトニ同意ナリヤノ三点ヲ承知シタキ旨申越シタリ

二、帝國政府ハ大正十四年七月十八日付ヲ以テ右三点ノ何レニ対シテモ主義上賛同スル旨回答セリ

三、越ヘテ昭和三年十一月二十二日在京瑞西国公使ハ書翰ヲ以テ本件會議ハ昭和四年六月ニ開催ノ予定ナル処帝國政府ニ於テ議題ノ基礎トナルヘキ案ニ対シ意見及提案ナキヤ並本件會議ニ赤十字國際委員會及 *Ordre Souverain de Malte* (マルタ教団)ノ参加方ニ関シ異議ナキヤ回答アリ度旨「ジュネーヴ」条約改正案及俘虜ニ関スル法典案ヲ添ヘテ申越シタリ

四、依テ外務省ハ右ノ旨陸海兩省ニ通知シ其意見ヲ求メタル処海軍省ヨリハ本年一月十八日付ヲ以テ

(一)出来得レハ「ジュネーヴ」条約ノ原則ヲ海戦ニ応用ス

465

昭和4年6月27日

田中外務大臣より
在スイス吉田(伊三郎)公使宛(電報)

我が方代表決定について

本省 6月27日後発

第九号

貴電第四号ニ関シ

本邦委員六月二十四日付ヲ以テ貴官ノ外左ノ通被仰付

在仏砲兵中佐

シモムラ
下村 定

在仏海軍中佐

セイソウ
三浦 省三

随員六月二十五日付左ノ通命セラル

天城書記官

在白

本野書記官

在独陸軍一等軍医

アキラ
松田 彰

在独海軍軍医少佐

カミハヤシ
ヨシハル
神林 美治

委員付六月二十六日付左ノ通命セラル

在仏

中山書記生

在白

中沢書記生

在寿府

阿南書記生

ル条約及病院船ニ関スル条約ヲモ調査審議スルヲ適當ト認ム

(二)二条約案共ニ議題トシテ審議スルコト差支ナシ

(三)赤十字國際委員會及「マルタ」救保協會ノ會議ニ参加差支ナキ旨回答アリ

陸軍省ヨリハ

「条約改正案及法典案共ニ其性質上詳細ニ規定シ置クコトハ一面必要ナルヘシト雖モ余リニ細目ニ亘リテ規定シ之カ適用ニ際シ反ツテ實際ニ合セサルカ如キ結果ヲ生スルノ虞アルヲ以テ成ルヘク条約案ヲ簡單ナラシムルノ要アルヘク就中法典案中俘虜收容所ノ設備、衛生、栄養、被服、将校ニ関スル特定事項ノ如キハ一層緩和セシムルヲ可トス

又改正案第十四条第一項『材料中ニハ輓馬ヲ含ム』ハ単ニ輓馬ノミナラス其他ノ馬匹軍用犬等ヲ含ムノ意味トスル為『動物』ト改ムルヲ可トセン」

趣回答アリタリ

466

昭和4年6月29日

田中外務大臣より
在スイス吉田公使宛(電報)

赤十字条約改正および俘虜条約制定會議に対する我が方方針

本省 6月29日後発

第一二号

貴電第六号ニ関シ

本件會議ニ対スル陸軍海軍外務三大臣ノ訓令左ノ通電報ス之ニヨリ措置セラレ度シ

一、一般方針

「ジュネーヴ」条約改正案及俘虜ニ関スル法典案共ニ其性質上詳細ニ規定シ置クハ一面必要ナルヘシト雖モ余リニ細目ニ亘ル時ハ之カ適用ニ際シ反ツテ實際ニ適合セサル結果ヲ生スル虞アルカ故ニ条約案ヲ可成簡單ナラシムルヲ可トス特ニ俘虜ニ関スル法典案ノ如キハ本邦ハ欧米諸国ト生活様式ヲ異ニスルヲ似テ精細ナル規定ハ実行不可能ナリ故ニ法典案中俘虜收容所ノ設備、衛生、栄養、被服、将校ニ関スル特定事項ノ如キハ一層緩和スルヲ可トス向後ノ戦争ニ際シ俘虜ノ取扱ニ関スル適否ハ中立国

及赤十字国際委員会ノ合法的干渉ニ依リ外交上ノ問題トナリ世界ノ批判ヲ受クルニ至ルヘキカ故ニ本法典ニ関シテハ日本トシテ今後不利ヲ招カサル様注意スルハ肝要ナリ

二、逐条の方針 左記ニ從ヒ主張ヲ為スヘシ

(イ) 赤十字条約案ニ関シテハ(英案ニ依ル)

第二条 敵ノ手ニ落チタルモノハ総テ(sont prisonniers de guerre)ト言フハ正シカラス、軍医、赤十字員ノ如キハ俘虜トナラス即「第十、第十一、第十二条ニ規定スル人員ヲ除ク」ト訂正スヘシ

第四条第一項 (tous les prisonniers tombés)トアル「プリゾニエ」ヲ取去リ他ノ適當ナル文字ニ換フヘシ

俘虜トナラサル人員、医者及赤十字員ノ如キモ速カニ其負傷、病状ヲ報告セラルルヲ至当トナス故ナリ

第二項 (Croix Rouge Internationale)トセルハ正シカラス(Le Comité international de la Croix Rouge)ト改ムヘシ

第五条 (Blessés et malades des armées)ノ arméesヲ取去ルヘシ軍隊ノ人ト限ル理ナシ他ノ人モ同シニ取扱フ

ヘシ

第十一条 (Sociétés de secours volontaires)ハ croix rougeト改ムヘシ今日ハ此ノ名称ノ方法的ナリ国際連盟規約第二十五条ニ明文アリ

第十三条 (voie sera ouverte)ト云フ条件ハ必要ナシ「軍事上ノ要求」ノ方カ大切ニシテ之ノミニテ充分ナリ依テ二条件ヲ一条件トスル方可ナリ

第十四条 Le même entretien ト le même logement トニ付テハ「人種宗教ヲ参酌シテ適當ニ定ムヘシ」トカ「国情ニ依リ適當ニ定ムヘシ」ノ如キ意味ニ變フヘシ

西洋人ハ東洋人ノ衣食住ニテ生活シ得ス原案ノ儘ニテハ必スヤ不服生スヘシ日露及日独戦争ノ実例ニ依ルヘシ

第十七条 Sociétés de secours volontairesヲ「赤十字」ト改ムヘシ

第十八条末項 文字ノ用法ニ過失アリ Personnelカ réquisition サルルハ意不明ナリ此点第十一回赤十字国際總會ノ採択セル案ハ seront soumis aux règles トアル故可ナリ

第二十四条第二項 (charitable)ノ文字ヲ取り去ルヘシ赤

十字ノ活動ハ現今ニ於テハ charité ニ限ラス国際連盟規約第二十五条ニ依ル activité ト改ムヘシ

(faire usage de l'emblème)ノ次ニ d'après l'usage en temps de guerre ヲ加フヘシ然ラサレハ明白ヲ欠キ規定ノ効果少シ

赤十字ノ記号使用ヲ正確ナラシムルカ為ノ規定ナルヲ以テ唯「使用ヲ許ス」ニテハ不明瞭ナリ如何ニシテ如何ナル人及物件ニ使用スルカヲ明確ニスルヲ要ス明細ニ規定スルモ可ナリ「戦時ニ準シテ」ト定ムルモ一方法ナリ此記号ヲ付シタル人ヲ国際的ニ尊重スルノ一条ヲ加ヘ更ニ其物件ノ免税ヲ規定スルハ一層適當ナリ

日本ハ大地震ノ際米国ヨリ輸入セル救護物件ハ免税ノ取扱ヲ受ケシモノナリ日本トシテハ此事ヲ引用主張スルハ正シキ態度ナルヘシ

支那ニ於テ平時ノ活動ヲ為スニ付テモ赤十字ノ人員ト物件トニ付テ支那人ヨリ尊敬セラルル如クニ規定シ置クコトハ日本ノ為ニ甚大ナル便益アルナルヘシ

(ロ) 俘虜ニ関スル法典案ニ付テハ(英案ニ依ル)

第九条第一項 「一定ノ地域ニ自由居住スル」ニ付テ「必

ス宣誓ヲ為サシムルコト」ノ条件ヲ付スルハ適當ナルヘシ

第十条第三項 「収容所以外ノ散歩」ハ自由ナリヤ引率ナリヤ此点案文明確ヲ欠ク日露戦争当時ハ士官ハ自由トシ兵卒ハ引率トシタリ斯クノ如ク規定スル要アルヘシ

第四十三条 「中立国 librement ニ通牒」スルコトトセハ全々通信ノ檢閲ヲ廃止スルコトニナリ弊害アルヘシ「檢査ノ下ニ自由ニ通信ス」ト改ムヘシ

第五十六条 「パント水」ト云フ事ハ欧米本位ノ法文ナリ「米」ノ文字ヲ入ルヘシ

第八十三条 既ニ釈放セシモノハ法廷ニ引出ス能ハス「再ヒ捕ヘラレタル場合ニハ」トノ文字ヲ入ルヘシ然ラサレハ本条ハ空文ニ終ルヘシ

第八十四条 Seuls ト云フ文字アル故本条ハ第六十九条及第七十条ト一致セサルカ如キ感アリ直ニ本国ニ帰還シ得サル者他ニアル故此文字ヲ削除スヘシ

467 昭和4年7月3日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

會議開催につき衛生飛行機問題などに関し我
が方方針請訓

付記 昭和四年七月五日付在ジュネーヴ下村(定)陸

軍中佐より宇垣(二成)陸軍大臣宛下電第一号
条約案の逐条審議状況について

ジュネーヴ 7月3日前発
本省 7月4日前着

第二号

吉田公使宛貴電第一二号前段ノ一般方針ヲ會議ノ劈頭演説
シタルニ多数ノ委員ハ大体此ノ主義ニ賛成セリ

會議ハ瑞西政府ヨリ最初ニ各国ニ配布セシ赤十字ノ手ニ成
レル兩条約案ヲ討議ノ基礎トスルコトナレリ
左ノ点御訓示仰キ度シ

(一)瑞西国旗徽章濫用防止ノ件(document一第二十一頁)

(二)前記条約案中我例ニ抵触スル条項(例ヘハ俘虜処罰ノ規
程)アル処改正赤十字条約第二十七条及第二十八条ノ如
キ約束ヲ応諾セラルヘキヤ

(三)平時戦時ニ於ケル条約ノ解釈適用ニ関スル紛議ヲ義務的
司法又ハ仲裁裁判ニ付スル案

下電第一号

(7月8日外務省写接受)

本會議ハ二日ヨリ分科会ヲ編成シテ兩条約案ノ逐条審議ニ
移レリ五日迄ノ主ナル議事左ノ如シ

一、衛生飛行機ニ就イテハ多分外務省經由三委員發電第二
号報告ノ条件通過スル見込ナリ

二、俘虜ノ待遇ニ就イテハ当該分科会ニ於テ下村ヨリ大臣
訓令及前記電報記載ノ趣旨ニ基キ原案中ノ細密ナル規定
及数字ノ削除ヲ主張シタル所米国外三国賛成シ討論ノ結
果逐次其説優勢トナリ遂ニ分科会ハ日本外二国委員ノ手
ニテ原案第十乃至第十五条ヲ一括シテ簡單ナル修正案文
ヲ起草セシムルコトヲ決議スルニ至リシモ反対ノ氣分尙
盛ナリ

三、俘虜ニ関スル条約ヲ海軍空軍ノ交戦者及ビ敵商船乗組
員等ニ適用セントスルノ議アリ追テ具体的ニ審議セラル
ルコトナルヤモ計ラズ右外務海軍兩省ヘ伝達ヲ乞フ

468

昭和4年7月(7)日

在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

俘虜条約の海戦への適用につき海軍三浦委員

(四)衛生飛行機ニ関スル御方針
(以下下村ヨリ陸軍大臣ヘ御伝ヘテ請フ)

尚逐条審議ニ当リ左ノコトヲ提議スル予定

(一)衛生飛行機利用ノ価値ハ之ヲ認ムルモ同機カ彼我ノ戦線
ヲ横断スルコト著シク戦線ニ接近スルコト並ニ地上ヨリ
中立ノ標識ヲ認メ得サル如キ高度(英仏ハ千米ト提案ス)
ヲ以テ飛行スルコトヲ禁止ス

(二)中立国衛生勤務員カ交戦国ノ承認ナクシテ戦場ニ行動ス
ルコトヲ成ル可ク制限ス(瑞西政府提出赤十字第十一条
bis)

(三)俘虜及我軍ニ收容セル衛生勤務員ニ対スル給与其ノ他待
遇ノ程度ハ同一地方ニ在ル我軍同一階級ノ軍人ト同等ナ
ラシムルコトヲ原則トシ且ツ衣食住等ハ我国本来ノ習慣
ニ従フヲ本旨トスルコト(瑞西政府提出俘虜 section 第
二赤十字第十三条)

(付記)

ジュネーヴ 7月5日後8時55分發
陸軍省 7月6日後1時10分着

より財部海軍大臣に請訓

ジュネーヴ 發
本省 7月7日前着

第三号

三浦ヨリ

海軍大臣ヘ

「ジュネーヴ」条約及俘虜条約ヲ海戦ニ適用スヘキ条約ヲ
今回ノ會議ニ於テ同時ニ審議スルヲ可トスル旨帝國政府ヨ
リ曩ニ瑞西政府ニ回答セラレアル処端ナクモ俘虜条約第一
条ノ審議ニ当リ俘虜ノ定義ヲ如何ニスヘキヤノ問題起リ俘
虜ハ独リ陸軍ノミナラス空軍及海軍ノ交戦者及敵商船乗員
ニモ及ホサントノ議アリ仮令之ヲ定義中ニ包含セシメラレ
サル場合ニ於テモ末尾ニ一条ヲ加ヘ本条約ノ一部ハ空中戦
及海戦ニ於ケル俘虜ニモ適用ストノ一般的条項ヲ定ムルコ
トトナルヤモ知レス此ノ場合帝國トシテハ曩ニ瑞西ニ回答
セル次第モアリ之ニ反対スルノ理由ナキモ小官ノ意見トシ
テハ元來今回改訂制定セントスル条約ハ俘虜ノ待遇余リニ
鄭重ニ過キ戦時非常ノ際斯ノ如キ義務ヲ遂行シ得ルヤ甚タ
疑ハシク成ルヘク海戦ノ場合ニ負フ義務ヲ輕減スルヲ得策

ト思考スルニ付テハ右ノ如キ条項ノ加ヘラル場合モ出来得ル限り之ヲ許サハ等ノ字句ヲ挿入シテ成ルヘク之ヲ緩和スルコトニ努力致スヘキモ之ニ関スル御方針至急回訓ヲ請フ

469 昭和4年7月9日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

俘虜の待遇に関する赤十字国際委員会の関与
問題などにつき各国委員と内話について

ジュネーヴ 7月9日後発
本 省 7月10日前着

第四号

在瑞西公使宛貴電第一二二二号ニ関シ

(一) 条約案ヲ簡單ニシテ我現行法ニ抵触スル箇条ヲ除クコトニ努メ居レリ

(二) 主ナル国ノ委員ト連絡シ俘虜待遇ニ関スル中立国及赤十字国際委員会ノ関与ヲモ成ルヘク防止スル方針ナル処英國委員 Warner ハ政府ハ委員会ノ関与ヲ欲セサルニ付之ニハ必ス交戦国ノ同意ヲ要スルコトヲ主張スヘキ旨ヲ

吉田ニ内話シ米國委員 Wilson ハ米國カ墨西哥ニ於テ日本カ滿州ニ於テ戰フ場合右委員会ノ干涉ヲ許ササルコト然ルヘク而シテ敵國ノ利益ヲ代表スル中立國ノ関与ヲ拒ミ難キニ付其ノ代表者又ハ其ノ委任ニ依ル右委員会ノ関与ヲ許ス方針ナリト言ヒシニ付吉田ハ同委員会ヨリノ派遣者カ交戦國ノ欲セサル人ニ非サルコトヲ要スヘク又中立國カ委任ヲ為スニ其ノ責任ニ於テスルヲ要スヘシト述ヘシニ対シ米委員ハ前者ヲ主張スルコト困難ナランモ日本之ヲ欲セハ後者ヲ主張スルヲ辞セサルヘシト内話セリ

(三) 往電第二号(三)ニ関シ同米國委員ハ平時仲裁々判ヲ諾スヘキモ戰時之ヲ欲セス爭議ハ交戦國間ニテ妥結ノ方針ナリト内話シ前記英國委員ハ右重大問題ナルモ実ハ考ヘシコトナシ早速研究スヘシト答ヘタリ

470

昭和4年7月12日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

俘虜の待遇に関する赤十字国際委員会および
中立国の関与問題につき英米兩國委員との内
話について

第五号

ジュネーヴ 7月12日前発
本 省 7月12日後着

吉田、英國委員ニ懇談セシニ

往電第四号(二)ニ関シ英國側モ敵國ノ利益ヲ代表スル中立國ノ無制限ノ関与ヲ欲セス赤十字国際委員会ニ対スルト同様其ノ活動ニ交戦國ノ承諾ヲ要スト主張セムト答ヘタリ他方米國ハ中立國及赤十字国際委員会ノ或ル程度ノ関与ヲ認ムル意向ナリシニ付吉田ハ右ハ後日ノ禍ノ原因トナルヘキヲ以テ米國委員 Wilson ト懇談シ英國案(中立國及前記委員会ノ関与ニ関シ不交戦國ノ承諾ヲ要スル案)ヲ支持スヘキヲ述ヘタルニ米委員モ米國ハ其ノ場合英案ニ賛成スルニ異議ナシト云ヘリ

往電第二号(二)ニ関シ英國ハ各國徽章保護法制定ノ意アルモ瑞西ノ分ヲ數ニ入ルルハ(二十七条瑞西提案)英國側ニテ賛成セスト語リタリ

471 昭和4年7月12日

幣原外務大臣より
在ジュネーヴ會議委員宛(電報)

俘虜条約案に対する我が方対案処理につき了
承の旨宇垣陸軍大臣より陸軍下村委員へ通報

付記 昭和四年七月一日付在ジュネーヴ下村陸軍

中佐より宇垣陸軍大臣宛下電第二号

俘虜条約案に対する我が方対案処理につき請

訓

本 省 7月12日後発

第二号

陸軍大臣ヨリ下村委員へ

下電第二号ニ関シテハ電文ノ趣旨ニテ差支ナシ

(付記)

ジュネーヴ 7月11日前10時35分発
陸 軍 省 7月11日後10時20分着

下電第二号

俘虜待遇分科会其後ノ経過左ノ如シ

一、議案第十乃至第十五条ニ対スル日本ノ対案ハ投票ノ結果僅カノ差ニテ否決セラレタルモ英仏二國新ニ我が方針ニ賛成シ原案ト我が対案トノ中間案ニテ其ノ後ノ審議ヲ

ナシタル結果分科会ノ決議トシテ原案中ノ数字規定ヲ削除シ又収容所ノ設備及俘虜ニ与フル食事ノ品質及分量ハ其ノ地方ニアル我が補充隊若クハ含営部隊ト略同一ナラシメ又被服ニ付テハ概ネ原案第十五条ノ規定ヲ存置スルコトトナレリ原案第十二、第十三条ハ日本ノ削除説通過セズ

二、将校ノ特別待遇ニ付テハ原案第二十二條ノ削除ヲ要求セシニ多数決シテ通過セリ

右ノ二要件ハ近ク俘虜總會ニ報告セラルル筈御意見至急指示ヲ乞フ

472 昭和4年7月13日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

衛生航空機問題に関する討議について

ジュネーヴ 7月13日後発
本 省 7月14日前着

第七号

衛生航空機問題ハ既ニ分科会ノ決議ヲ經テ本十二日赤十字總會ノ討論ニ付セラレタリ其ノ結果略確定ト認メ得ル件左

第八号

往電第七号末段中立權ヲ与フル衛生航空機ノ任務ヲ如何ニ定ムヘキヤノ問題ハ分科会ニテハ殆ト全員一致ニテ之ヲ傷病者ノ後送機關ニ局限スル様採決シ總委員會ニ報告セシ処英米二国ヨリ之ヲ広ク戰時衛生勤務全般ニ利用スル様拡張スヘシトノ意見新ニ提出セラレタルモノナリ

英米ノ説ハ一般論トシテハ尤モノコトニシテ陸上交通ノ不便ナル戦地又ハ殖民地戦争ニハ至極便利ナルヘシト思ハル然レ共無制限ニ中立飛行機ノ使用ヲ許ストキハ遂ニハ往電第七号第二項ノ飛行制限ヲモ撤廃セサルヘカラサルノ結果ヲ来ス虞アリテ之カ為陸戦ノ場合敵ノ空中視察ヲ妨クルコト不可能トナルヘク殊ニ我国ノ立場トシテハ同意シ難シト信ス

英米ノ主張ハ仲々強硬ニシテ既ニ相当ノ賛成者アルヲ以テ多数決ニ依リ此ノ説通過スルヤモ計ラレス此ノ場合ニ於テモ往電第七号第二第三項丈ケハ極力其ノ存続ヲ主張スル予定ナリ尚本問題ニ関シ英國委員カ極秘トシテ吉田ヘノ内話左ノ通

英國政府ハ近東ニ於ケル戦争ノ場合ヲ慮リ衛生航空機ヲ一

ノ如シ

一、衛生航空機ハ中立ノ印トシテ全体ヲ白色ニ塗り翼ノ上下ニ赤十字ト所属軍ノ紋章トヲ付ス

二、特別ノ許可ナキ限り戦線ヲ横断シ又ハ所属軍ノ

Grands Postes de Triage 即チ野戦病院ノ線ヨリ前方ニ

出ツル事並ニ築城シタル地帯ノ上ヲ飛行スルコトヲ禁ス

三、地上ヨリ着陸要求ノ信号アリタル時ハ之ニ服従スヘキ

信号ノ手段ハ条約中ニ規定セス別ニ之ヲ定ム

右ノ内第一項ニ付テ日本委員ハ高サノ制限ヲモ必要トスルコトヲ最後迄主張セシモ投票ニテ否決セラレタリ次ニ航空機ヲ戦場衛生勤務全般ニ利用スルコトヲ認メテ之ニ中立權ヲ与フヘキヤ又ハ当分ノ内単ニ傷病者ノ後送機關トシテ其ノ中立ヲ許スヘキヤニ付テハ未タ委員會ノ議論決着セス

473 昭和4年7月14日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

衛生航空機の任務に関する討議状況について

ジュネーヴ 7月14日前発
本 省 7月14日後着

般衛生勤務ニ利用スルノ必要ヲ痛感シ同機ハ危険ヲ冒シ何レノ地ニ行動スルモ可ナルコトヲ主張シ居レリ同機ノ任務ヲ局限セントスル分科会ノ決議ヲ政府ニ電報セシカ此ノ儘承諾スヘシトハ思ハレスト右御含迄

474 昭和4年7月15日 幣原外務大臣より
在ジュネーヴ會議委員宛(電報)

俘虜処罰および衛生航空機問題に関する我が

方対応につき訓令

本 省 7月15日後発

第三号

貴電第二号ニ関シ

左ニ依リ措置セラレ度シ

(一)目下研究中追テ訓令ス

(二)俘虜処罰ノ規定ハ貴見ノ通現行法令ト抵触スル嫌アル事

項アリ例ヘハ本邦俘虜処罰ニ関スル法律ニ依レハ俘虜ヲ

死刑ニ処スル場合アル処第四十七条第二項ノ *toutes les*

peines corporelles ニハ死刑ヲモ含ムモノトセハ(尤モ通

説ハ死刑ヲ生命刑トナシ体刑トハ區別スルモ)本項ハ前

記法律ニ抵触スヘシ故ニ第四十七条第二項ハ削除スルヲ可トス又第四十九条ハ其第二項ニ於テ列挙スル事項ニ関シテハ懲戒罰ヲ課スヘシト規定スルモ本邦軍律ニ於テハ右ノ如キ場合ニモ裁判的処罰ヲ課スル事アルヘケレハ第四十九条モ亦削除スルヲ可トス(英国提案ニハ第四十七条、第四十九条ハ削除サレアリ)

又赤十字条約案第二十七条、第二十八条ニ関シテハ本邦トシテハ現行条約以上ノ義務ヲ負担セサルヲ可トスルヲ以テ第二十八条ノ et d'une manière générale tous actes contraires aux dispositions de la Convention ヲ削除スルヲ可トス(英国提案ニハ第二十七条、第二十八条ハ削除サレアリ)

(三)何レカノ国ヨリ具体的ノ提案アリタルヤ若シ然リトセハ案文電報アリタシ

(四)陸戦ト海戦トハ情況ヲ異ニスルヲ以テ別々ニ考慮スルヲ可トスヘシ

(イ)陸戦ニ関シテハ、四及貴電第二号後段ノ(一)ニ関シ衛生飛行機ハ戦場ニ於テ之ヲ識別取締困難ナル事情アルニ付貴電ノ趣旨ニ依リ禁止ノ場合ヲ出来得ル限り具体的

条約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル条約及病院船ニ関スル条約ヲモ調査審議スルヲ適當ト認ムルモ新ニ俘虜条約ヲ海戦ニ適用スルコトヲ審議スルハ考慮ヲ要スヘシ

476 昭和4年7月17日 幣原外務大臣より
在ジュネーヴ會議委員宛(電報)

スイス国旗徽章の乱用防止に関する訓令

本 省 7月17日後発

第五号

貴電第二号前段(一)ニ関シ
国ノ紋章、旗章及其他ノ徽章等ノ保護ニ関シテハ一九二五年海牙ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護同盟条約第六條ノ三ニ於テ既ニ規定スル所ナルニ依リ本件条約ニ於テ特ニ瑞西国々旗徽章ノミノ濫用防止ヲ規定スルハ適當ナラスト認メラルニ付瑞西国修正案ニハ反対セラレ度シ

477 昭和4年7月17日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

俘虜委員会および赤十字委員会における討議

ニ規定スル様努メラレ度シ
(ロ)海戦ニ関シテハ、衛生飛行機ハ海軍ノ関スル限り始シト之カ利用ノ価値ヲ認メス衛生飛行機ノ取扱ニ関シテハ英案ニ同意ス
(以下陸軍大臣ヨリ下村委員ヘ御伝ヘテ請フ)

貴電第二号後段ノ(二)及(三)ニ関シテハ貴電ノ通

475 昭和4年7月15日 幣原外務大臣より
在ジュネーヴ會議委員宛(電報)

俘虜条約の海戦への適用につき海軍大臣より
海軍三浦委員ヘ訓令

本 省 7月15日前発

第四号

貴電第三号ノ一二ニ関シ

海軍大臣ヨリ三浦委員ヘ

貴見ノ通処理セラレ差支ナシ特ニ海戦ニ於ケル戦闘動作ノ妨碍トナル如キ規定及海上ニ於テ俘虜取扱上実行困難ナル如キ条項ヲ加ヘサル様努ムヘシ

尚帝国政府ヨリ曩ニ瑞西国政府ニ回答セル通「ジュネーヴ」

状況について

別 電 昭和四年七月一七日付在ジュネーヴ會議委員

より幣原外務大臣宛第一〇号

条約解釈に関する条項案

ジュネーヴ 7月17日後発
本 省 7月18日前着

第九号

(一)俘虜委員会ノ兩分科会ハ原案大部ノ審議ヲ終リ赤十字委員會ハ同日迄ニ原案第二十七条迄ノ審議ヲ終ヘタリ

(二)俘虜ノ衣食住ニ関スル規定緩和ノ件中立国衛生勤務員カ独断ニテ戦場ニ進入スル事ヲ制限スルノ件衛生航空機ノ戦場ニ於ケル行動範圍制限ノ件等ニ付テハ多分既ニ報告セル程度ニテ總會ヲ通過スルナラント思ハル

(三)然レトモ會議ノ空氣トシテ最近戦役ニ鑑ミ可成具体的ニ傷病者衛生各機關ノ保護及俘虜ノ優遇手段ヲ規定シ且國際的ニ之カ履行ヲ調査監督シ得ヘキ方法ヲ定メントスル希望多数国委員ノ間ニ横溢シアルト総テノ決議カ多数決ナルトノ為完璧ニ我カ主張ヲ貫徹シ又ハ条約ヲ簡單ナラシメ得サル場合鮮カラサルハ遺憾ナリ

(四)三委員ハ我カ重要ナル法令ニ抵触スル事項我カ国情及軍事上承諾シ難キ意見或ハ条約ノ履行ニ当リ無制限ニ中立国又ハ赤十字国際委員会ノ干渉の行為ヲ認メントスル条項等ニ対シテハ其ノ都度之ニ反対シアルモ若シ最後ノ會議ニ於テ我カ主張破ルルカ如キ場合ニハ留保ノ已ムナキニ至ル事アルヘシト信ス之等条項ノ主ナルモノニ付テハ

逐次後電ニテ報告セントス

(五)⁽²⁾俘虜条約第一条ニ於テ海戦ニ依ル俘虜モ亦本条約ノ俘虜ト認メラレ第三篇及其ノ他多数ノ規定ハ該俘虜カ敵ノ領土又ハ其ノ占領地ニ揚陸シタル以後ニ於テ適用セラルルコトニ分科会ニテ決定セリ之以上緩和スルコトハ會議ノ空氣前述ノ通ナル為困難ナリト認メラル但シ右適用条章ハ尚審議ノ上確定スヘク海上作戦ノ妨トナルカ如キ箇条ハ除外スヘキ筈ナルモ案文出来次第更ニ電報ス

(六)瑞西国記章保護ノ件ハ貴電第五号接到前日英等ノ反対ニ拘ラス可決セラレタリ

(七)貴電第三号(二)ニ関シ俘虜委員会法律分科会ハ西班牙ノ提案(「ドキユエメント」二第四十八頁)ヲ採択セスシテ別電第一〇号ヲ採用シタリ同分科会ハ終了セシニ付今後新提

案ハ無カルヘシト思考ス赤十字条約ニ関シテハ紛議解決ニ関スル提案二三アリ或ハ前記別電ト同一条文ヲ議決スルヤモ知レス

(八)俘虜条約ハ分科会ニ於テ来年二月一日迄ヲ調印期間ト議決シタリ赤十字条約モ同様ノ事トナルヘシト思ハルルニ付テハ會議終了後三委員ノ意見ト共ニ条約成文郵送スヘキニ付帝國政府ニ於テ御審査ノ上留保又ハ無留保ノ御指令ヲ得テ三委員成ルヘク速ニ調印スルコト至当ト思ハルル処若シ正文ノ到達ヲ俟タスシテ調印セシメラルル御意向ノ場合ニハ重要条文電報スヘシ何分ノ御指令ヲ仰ク

(別電)

ジュネーヴ 7月17日後発

本 省 7月18日後着

第一〇号

Article 97

Afin mieux assurer application des dispositions présente convention Puissance protectrice désignée Par Etat belligérant ennemi pourra, en dehors de son

personnel diplomatique, désigner délégués appartenant à autres Etats neutres. Ces délégués devront être agréés par Etat belligérant ennemi.

Les représentants de Puissance protectrice ou ses délégués agréés seront autorisés se rendre dans toutes localités sans aucune exception, où se trouvent prisonniers. Ils auront accès dans tous locaux occupés par prisonniers et pourront s'entretenir sans témoins avec ceuxci personnellement ou par intermédiaire interprètes.

Belligérants faciliteront dans plus large mesure possible tâche des représentants ou des délégués agréés de Puissance protectrice. Autorités militaires seront informées de leur visite.

⁽²⁾Article 98

En cas désaccord entre belligérants sur application dispositions présente Convention Puissances protectrices devront dans mesure possible prêter bons offices aux fins règlement différénd.

Dans ce but chacune des Puissances protectrices

pourra notamment proposer aux belligérants intéressés réunion de représentants de ceux-ci s'il y a lieu sur territoire neutre convenablement choisi. Les belligérants s'engagent donner suite aux propositions qui leur seront faites dans ce sens.

Puissance protectrice pourra le cas échéant soumettre a agrément des Etats en cause personnalité appartenant a Etat neutre ou représentant du Comité International Croix Rouge qui sera appelé a assister a cette réunion.

478 昭和4年7月26日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

両条約には概ね留保の必要なしとの所見報告

ジュネーヴ 7月26日前発

本 省 7月27日前着

第一四号

両条約成文ニ対スル我委員ノ所見左ノ如シ

一、両条約ニ対スル我政府ノ訓令及従来各委員ヨリ電報セ

シ意見ハ我国内法抵触条項ノ若干ヲ除クノ外概ネ採用セラレ少クモ実行上他ヨリ拘束ヲ受クル虞ナカルヘシ
二、俘虜取扱上ノ事務其ノモノニ付テハ往電第九号第三項ノ理由ニ依リ海牙条約陸戦法規ニ比シ各種ノ規定具体的トナリタル為同業務ハ従来ヨリ複雑トナルヲ免レス
三、俘虜条約ヲ開戦俘虜ニ適用スル為ノ条件俘虜処罰ヲ制限スル規定及両条約履行監督ノ為中立国等カ干涉シ得ル範圍ハ何レモ相当ニ緩和セラレタリ
之ヲ要スルニ両条約共立法關係事項ノ外ハ先ツ留保ノ必要ナカラント認ム

479 昭和4年7月27日 在ジュネーヴ會議委員より
幣原外務大臣宛(電報)

兩条約調印式にあたり議定書の上に署名についで

ジュネーヴ 7月27日後発
本省 7月28日前着

第一五号

無保留ニテ行ハルヘキモ第六十六条末段ノ解釈ニ付疑アリ
同条所定ノ「三ヶ月」ノ期間ハ英国側見解ニ依レハ通告カ
俘虜ヲ保護スル国ニ到達シタル日ヨリ起算セラルヘキモノ
ニシテ右趣旨ハ近日中瑞西国ニ通牒セラルヘキ趣ナリ一件
書類郵送ス
瑞西ニ転電セリ

481 昭和4年12月28日 幣原外務大臣より
在スイス吉田公使宛(電報)

俘虜条約には無留保で調印方訓令

付記 昭和四年一二月条約局第二課

赤十字条約および俘虜条約に関する外務、陸軍、海軍省協議録

本省 12月28日後発

第二三号

松平大使発本大臣宛第四九三号ニ関シ

俘虜ノ待遇ニ関スル条約ノミ無留保ニテ調印セラレ度シ赤十字条約ニ関シテハ追テ訓令ス下村委員三浦委員ニ御伝アリ度シ

二十七日両条約及最終議定書調印式アリ會議終了ス帝國委員ハ条約ニハ署名セス議定書ノミニ署名ス英國委員亦同シ
議定書ニハ赤十字条約救恤協會ニ関スル規定カ「モルタ」宗教団等ニ適用アル旨ノ解釈ノ外日本提案ノ赤十字材料尊重勸告其ノ他政府ヲ拘束セサル事項アルノミ

480 昭和4年12月20日 在英國松平大使より
幣原外務大臣宛(電報)

赤十字条約には留保付、俘虜条約には無留保で調印との英國の意向について

ロンドン 12月20日後発
本省 12月21日前着

第四九三号

往電第四八一号ニ関シ

二十日外務省ヨリ回答ニ接シタルカ英國側ニ於テハ赤十字条約案第二十八条ノ解釈ニ関シ同条約効力発生前既ニ使用中ナル瑞西国徽章(armoiries de la Confederation Suisse)又ハ類似ノ章標ハ之ヲ除外スヘキ旨ノ留保ヲ付シテ調印ニ決定セル趣ナリ尚俘虜ノ取扱ニ関スル条約ニ付テハ調印ハ

(付記)

赤十字条約、俘虜条約調印ノ為ノ外務、陸軍、海軍省協議会

一、昭和四年十二月六日午後一時ヨリ外務省小會議室ニ於テ開催陸軍省ヨリ土橋少佐、車田書記官、海軍省ヨリ藤田中佐、外務省ヨリ久保田外交官補出席

二、赤十字条約ニ関シテ

陸軍側ノ問題トセル点

(イ)第十三条第一項「同一ノ扶養、同一ノ宿舍」ト条文ニハアレトモ實際問題トナレルトキハ必ス外国ハ日本ニ対シ文句ヲ云フコトニナルト思フカ如何

○「如何ニ問題ニナルトモ日本トシテハ条約文ニカクノ如クアルテハナイカト突張レハ可ナラン」

(ロ)第十八条衛生航空機問題ニ関シテハ高度ノ制限ヲ除キ其他ハ大体陸軍ノ主張ノ通りトナレリ

(ハ)第二十四条第三項ノ結果主務官庁カ救恤協會ニ対シ銘々特別ノ記章ヲ定メテ与ヘル様ナコトニナリ其ノ為ニ国内法ヲ新ニ作ル様ナコトニナルノカ

○「此処ニ所謂殊別記章トアルハ赤十字記章ノコトテアルカラ銘々ノ協会ニ別個ノ記章ヲ与ヘル趣旨テハナイ又「国内法ニ從ヒ」云々トアルハ記章ノ濫用ヲ防止スル意味テアルト思フ日本ニハ既ニ此ノ目的ノ為ニハ勅令(大正二年勅令第十六号赤十字記章名称等使用者処罰ノ件)モアルコトテアルカラ本項ハ此儘テヨイト思フ」

其ノ他訳語ニ関シテハ「認識票」ハ第四条第三項テハ plaque didentité トアリ第九条末項テハ pièce didentité トナツテキル

又 moyens de transport ハ第十二条末項テハ「輸送方法」トアリ第十四条第一項テハ「輸送機関」トナツテキル此等ノ点然ル可ク訂正アリ度シ

○「之ハ外務省ノ作レル仮訳テアルカラ何レ訂正ニナル点モ多イト思フ」

海軍側ノ問題トセル点

(イ)第十八条ノ衛生航空機ハ海軍トシテハ困ル

○「第十八条ハ文句ノ体裁上ヨリ云フモ陸戦ノミノ規定ト思ハル又委員ノ報告ニモ『海戦ニ於ケル衛生航空機

道的精神ニモ鑑ミ今更「ケチ」ヲ付ケ度クナシ且俘虜待遇ニ関スル日本人ノ從來ノ態度ニ顧ミテモ決シテ俘虜ヲ虐待スル様ナ事モナイト思フカラ無条件テ署印シテモ差支ナシト思フ

四、瑞西国紋章保護ノ条項ニ関シテハ目下外務省ヨリ商工省ニ照会中ナルニ付其ノ結果ヲ待つテ決定スルコト

482 昭和5年1月8日 幣原外務大臣より
在スイス吉田公使宛(電報)

改正赤十字条約には留保付で署名方訓令

第一号

本 省 1月8日後発

客年往電第二三号末段赤十字条約ニ関シ

「日本国ハ第二十八条ノ規定ニ主義上賛同スルモ同条(ロ)ニ関スル限り使用禁止ノ時期ヲ留保シ且右禁止ハ之カ効力発生前ニ登録シ又ハ使用中ノモノヲ除外スルモノト解釈ス」トノ留保ヲ付シテ署名スルコトニ決定シタルニ付右留保ノ仏文貴方ニテ作成ノ上至急署名セラレタク尚署名済ノ上ハ時日並ニ留保仏文電報アリタシ

ノ利用ニ付テハ本会議ニ於テ幸ニ之ニ触ルルコトナカリキ」トアルカラ海軍側ノ心配ハナキト思ハル」
(ロ)第二十一条ニ「陸軍官憲」トアルカ之ハ場合ニ依リ「海軍」ニモ入ル様ニセヌト困ルコトナキヤ

○「原語ハ autorité militaire トアルカラ「軍事当局」ト訳セハ可ナラン」

三、俘虜条約ニ関シテハ

陸軍側ノ意見

(イ)第五十一条第二項ハ *guin auront coopéré à l'évasion* ノ *coopéré* ノ意味ニ從ヒ區別シテ考察スル要アリ「共謀」ノ意味ナレハ從來陸軍テモ刑罰ニ付シテ居ラヌ故ニ陸軍刑法第九十一条ト抵触セス若シ「幫助」ノ意味トスレハ本項ハ陸軍刑法第九十一条ト抵触スル故ニ陸軍刑法ヲ改正スル要アルヘシ

(ロ)第六十二条第三項ノ如キハ戦場ニ於テハ実行不可能テアルカ第六十三条ニモアル通り「捕獲国軍隊ニ属スル者ト同一」ニスレハヨイト了解シテ其儘トス

(イ)其他ニモ陸軍トシテ云ヒ分ハ種々アルカ既ニ会議ニ於テ日本ノ主張ヲ大イニ述ヘタコトテアルカラ条約ノ人

483 昭和5年1月11日 在スイス吉田公使より
幣原外務大臣宛

改正赤十字条約および俘虜条約に署名について

機密第九号 (2月5日接受)

昭和五年一月十一日

在瑞西

特命全權公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

赤十字条約及俘虜条約ニ署名ノ件

俘虜条約ニ関シテハ客年貴電第二三号ヲ以テ御訓示ノ次第アリ仍ツテ三浦、下村両中佐ニ対シ三委員同時ニ署名スルノ必要ナク又態々俘虜条約署名ノミノ為ニ「ベルン」ニ来ル必要ナキニ付赤十字条約署名ノ際同時ニ同条約ニ署名セハ可ナル可キ旨申送り置キタル処両委員トモ同意見ナリシニ付其ノ儘ニ致シ置ケリ

赤十字条約ニ関シテハ本月八日着貴電第一号ヲ以テ御訓令アリ仍テ別紙甲号ノ通り留保文作成シタリ

翌九日本官瑞西外務省ニ赴キ俘虜条約ニハ無留保ニテ署名

シ赤十字条約ニハ前記留保ヲ本官自ラ条約ニ書キ入レタル上署名シタルカ両条約ニハ本官署名ノ日ヲ記入セス又官名ヲモ付セス単ニ署名セシノミナリ

三浦、下村両中佐ニハ今月中ニ署名アリ度キ旨申送りタリ右報告ス

追テ八日瑞西外務次官ノ語ル所ニヨレハ英国ノ留保原文ハ英文ナリシニ付仏文ニ翻訳スルコトヲ求メ英国委員之ヲ承諾シタルヲ以テ瑞西外務省ニ於テ条約書ニ之ヲ書キ入レタル上同国委員之ニ署名セリ(右留保文別紙乙号^{省略}ノ通り)加奈陀、豪州ハ遠カラス署名スルコトト思ハルルカ何等通報ニ接セサルハ波斯、「コロンビア」及「ヴェネズエラ」ナリ兎ニ角日本署名セラルレハ大国ハ全テ揃フコトトナリ誠ニ喜ハシト語レリ

(別紙甲号)

Tout en acceptant en principe les dispositions de l'article 28,

Le Japon fait des réserves quant à la date de mise en vigueur de l'interdiction prévue sous lettre b. du dit article.

Le Japon entend que cette interdiction ne s'applique pas aux armoiries et signes qui auraient été en usage ou enregistrés avant son entrée en vigueur.

Les délégués du Japon signent la présente Convention moyennant les réserves susmentionnées.

484

昭和6年2月23日

徳川(家達)日本赤十字社社長より
永井外務次官宛

改正赤十字条約および俘虜条約の我が方批准につき国際赤十字委員会より督促について

付記一

昭和九年八月九日付重光外務次官より橋本

(虎之助)陸軍、長谷川(清)海軍各次官宛条一
機密合第三〇九一号

改正赤十字条約および俘虜条約の批准奏請について

二

昭和九年九月六日付橋本陸軍次官より重光外

務次官宛陸密第五二一号

改正赤十字条約の批准奏請には異存ないが俘虜条約の批准奏請には反対の旨回答

スル件

千九百二十九年七月「ジュネーヴ」ニ於テ締結ノ「戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル条約」及「俘虜ノ待遇ニ関スル条約」ニ関シ赤十字社ハ各其ノ本国政府ニ対シ成ル可速ニ之カ批准ヲ了セラルル様勧誘セラレ度趣ヲ以テ本社ニ対シ赤十字国際委員会ヨリ千九百三十一年一月二十日付通牒第二九五号ヲ以テ別紙^{省略}写ノ通申越候ニ付同写茲ニ及御送付候也

(付記一)

条一機密合第三〇九一号

昭和九年八月九日

外務次官 重光 葵

陸軍次官 橋本 虎之助殿

海軍次官 長谷川 清殿

「戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十七日ノ『ジュネーヴ』条約」及「俘虜ノ待遇ニ関スル千九百二十九年七月二十七日ノ条約」御批准方奏請ニ関スル件

調発第一一三号

(2月25日接受)

昭和六年二月二十三日

日本赤十字社社長 公爵 徳川 家達 (印)

外務次官 永井 松三殿

千九百二十九年七月二十七日ノ条約批准ニ関

本件ニ関シテハ昭和六年六月五日付条ニ機密合第一七三九号ヲ以テ申進メ置キタル処当省ニ於テハ近ク右二条約ニ対シ御批准方奏請ノ手續ヲ執リタキ意向ナルモ右差支ナキヤ貴省ノ御意見折返シ御回示相成度シ
追而戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル条約
新旧対照表一部添付ス

(付記二)

陸密第五二一号

(昭和9年9月7日接受)

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル
千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条
約及俘虜ノ待遇ニ関スル千九百二十九年七月二十
七日ノ条約御批准方奏請ニ関スル件回答
昭和九年九月六日

陸軍次官 橋本 虎之助(印)

外務次官 重光 葵殿

八月九日付条一機密合第三〇九一号照会ニ依ル首題ノ件中
「戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百
二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条約」ニ関シテハ

御批准方奏請ニ異存無之モ「俘虜ノ待遇ニ関スル千九百二
十九年七月二十七日ノ条約」ニ就テハ御批准奏請ヲ為ササ
ルヲ可トスル当省ノ意見ニ付可然取計ヒ相成度

(付記三)

官房機密第一九八四号ノ三

(昭和9年11月16日接受)

昭和九年十一月十五日

海軍次官(印)

外務次官殿

「俘虜ノ待遇ニ関スル千九百二十七年七月二
十七日ノ条約」御批准方奏請ニ関スル件回答
八月九日付条一機密合第三〇九一号ヲ以テ照会ノ首題ニ関
シテハ不取敢官房機密第一九八四号ノ二ヲ以テ回答致置候
処其ノ後研究ノ結果同条約ハ御批准方奏請セラレザルヲ可
トスル当省ノ意見ニ有之候

(別紙)

俘虜条約ニ対スル意見

一、帝国軍人ノ觀念ヨリスレバ俘虜タルコトハ予期セザル
ニ反シ外国軍人ノ觀念ニ於テハ必シモ然ラズ從テ本条約

ハ形式ハ相互的ナルモ實質上ハ我方ノミ義務ヲ負フ片務
的ノモノナリ

二、俘虜ニ関スル優遇ノ保証ヲ与フルコトトナルヲ以テ例
ヘバ敵軍將士ガ其ノ目的達成後俘虜タルコトヲ期シテ空
襲ヲ企図スル場合ニハ航空機ノ行動半径倍大シ帝国トシ
テ被空襲ノ危険益大トナル等我海軍ノ作戰上不利ヲ招ク
ニ至ル虞アリ

三、第八十六条ノ規定ニ依リ第三国代表ガ立会人ナク俘虜
ト会谈シ得ル点ハ軍事上支障アリ

四、本条約ノ俘虜ニ対スル処罰ノ規定ハ帝国軍人以上ニ俘
虜ヲ優遇シアルヲ以テ海軍懲罰令、海軍刑法、海軍軍法
會議法、海軍監獄令等諸法規ノ改正ヲ要スルコトトナル
モ右ハ軍紀維持ヲ目的トスル各法規ノ主旨ニ徴シ不可ナ
リ

右ノ理由ニ依リ本条約ハ御批准方奏請セラレザルヲ可ト認
ム

(付記四)

条一機密第六一八号

昭和九年十月十二日

外務大臣 廣田 弘毅

内閣総理大臣 岡田 啓介殿

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル
千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条
約御批准方奏請ノ件

瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ帝国全権委員カ關係各国全権
委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戦地軍隊ニ於ケル
傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十七
日ノ「ジュネーヴ」条約ニ関シ前記留保ヲ存シタル儘御批
准ヲ仰クコトト致度別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度
右条約ノ正文及訳文各四部相添ヘ此段及請議候也

(別紙)

(上奏案)

瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ帝国全権委員カ關係各国全権
委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戦地軍隊ニ於ケル
傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十七
日ノ「ジュネーヴ」条約ヲ前記留保ヲ存シタル儘御批准相
成様仕度別紙御批准書案相添ヘ此段謹テ奏ス

昭和九年十月十二日

外務大臣 廣田 弘毅

(御批准書案)

天佑ヲ保有シ万世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本国皇帝(御名)
此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝国全権委員カ瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ關係各国全
権委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署名シタル戦地軍隊ニ於ケ
ル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十
七日ノ「ジュネーヴ」条約ヲ閲覧点檢シ右留保ヲ存シテ之
ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元 年昭和 年 月 日

ニ於テ

親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈴セシム

御名 国璽

外務大臣

(付記五)

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル
千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条

約御批准ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善
ニ関スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条
約御批准ノ件ヲ審査スルニ此ノ条約ハ赤十字条約ト通称セ
ラルルモノニシテ初メ千八百六十四年(我カ元治元年)八月
瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ列国間ニ締結セラレ帝国ハ明
治十九年六月之ニ加入シ次テ同三十九年(千九百六年)七月
「ジュネーヴ」ニ於テ其ノ改正条約調印セラレ帝国ハ同四
十一年四月之ヲ批准シタリ然ルニ其ノ後文明ノ進歩ト世界
大戦ノ經驗トニ鑑ミ該条約ノ規定ヲ更ニ補修スルノ必要アリ
ト認メラレ大正十年及同十二年ノ第十回及第十一回国際
赤十字會議ハ之カ改正案ヲ採択シ次テ瑞西連邦政府ノ主催
ノ下ニ昭和四年七月「ジュネーヴ」ニ於テ日、英、米、仏、
独、伊、白等四十七箇国ノ参加ニ依リ開催セラレタル国際
會議ハ前記第十一回国際赤十字會議ノ採択セル条約改正案
ヲ議題トシ各国ノ提出ニ係ル数多ノ提案ヲ参酌シテ之ヲ審
議シ遂ニ同月二十七日新条約ヲ議定シ帝国全権委員ハ列国
全権委員ト共ニ之ニ署名シタリ是レ即チ本案ノ条約ナリ

新条約ハ形式ニ於テハ旧条約ノ全部ニ代ルモノナルモ實質
ニ於テハ其ノ一部ニ改訂ヲ加ヘタルモノニ過キス今新旧条
約ヲ對比シテ其ノ相違ノ要点ヲ摘録スレハ左ノ如シ

(一) 傷病者及死亡者ノ保護ニ付

新条約ハ(イ)戦線間ニ残留スル傷者ヲ收容スル為事情ノ許
ス限り其ノ都度局地の休戦又ハ射撃中止ヲ協定スヘキコ
トヲ定メ(第三条第二項)(ロ)傷病者及死亡者ノ認識方法
及相互通知並死亡ノ確認遺品ノ蒐集交換等ニ関スル規定
ヲ詳密ニシ(第四条第一項乃至第四項)(ハ)交戦者ハ敬意
ヲ以テ死亡者ヲ埋葬シ其ノ墳墓ヲ尊敬スヘク又戦争開始
ニ際シ公ニ墳墓係員ヲ設置シ戦争終了シタルトキハ直ニ
埋葬死亡者及墳墓ノ表ヲ交換スヘキコトヲ定ム(第四条
第五項乃至第七項)「

(二) 衛生機關ノ保護ニ付

新条約ニ於テハ(イ)獣医機關ノ人員材料カ衛生上ノ部隊又
ハ營造物ノ一部分ヲ構成セスシテ其ノ内ニ在ルノ故ヲ以
テ該部隊又ハ營造物ハ保護ヲ喪失スヘキモノニ非サルコ
トヲ定メ(第八条第四項)

(ロ)軍人タル補助看護人又ハ補助担架兵ニシテ特別ノ教育

ヲ受ケ且認識証明書ヲ携帯スルモノハ其ノ職務執行中捕
ヘラレタルトキハ常置衛生人員ト同一ノ取扱ヲ受クヘキ
モノト為シ(第九条第二項)

(イ)衛生人員ハ相手方ノ権内ニ陥リタル後抑留セラルルコ
トナキ旨ヲ明ニシ其ノ送還セラルル迄相手方ノ指揮ノ下
ニ引続キ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク所属交戦
国ノ傷病者ノ看護ニ従事セシメラルヘキコトヲ定ム(第
十二条第一項及第三項)

(三) 篤志救恤協會(各国赤十字社ノ類)ノ保護ニ付

新条約ニ於テハ(イ)交戦者ハ敵ノ篤志救恤協會ノ人員ニ対
シテモ自己ノ権内ニ在ル間自国軍隊ノ対当人員ト同一ノ
待遇ヲ与フヘキコトヲ昭ニシ(第十三条第一項)(ロ)篤志
救恤協會ノ建物ハ私有財産トシテ取扱ハルヘキコトヲ明
ニシ且同協會ノ建物及材料ニ対スル交戦者ノ徵発権ハ緊
急ノ必要アリ且傷病者ノ安全ヲ図リタル後ニ非サレハ之
ヲ行使スヘカラサルコトヲ定ム(第十六条第一項及第三
項)

(四) 衛生上ノ輸送機關ノ取扱ニ付

(イ)旧条約ニ於テハ傷病者ノ後送機關ニ対シテノミ特別ノ

保護ヲ与ヘタルモ新条約ニ於テハ衛生人員及衛生材料ノ輸送機関ニモ同様ノ保護ヲ及ホシ且該機関中ニハ隊ヲ為ササル単独ノ車両ヲモ包含セシムルコトトシ(第十七条)

(ロ)新条約ニ於テハ衛生上ノ輸送機関トシテ航空機ヲ使用スルコトヲ認メ右航空機力専ラ傷病者ノ後送並衛生人員及衛生材料ノ輸送ニ充テラルル間ハ之ニ特別ノ保護ヲ与フヘク該航空機ハ機体ヲ白色ニ塗り且国色章及赤十字ノ殊別記章ヲ付スヘク特別ノ許可アルニ非サレハ戦線及野戦病院ノ前方地帯並敵ノ領域ノ上空ヲ飛行スルコトヲ得サルモノトシ着陸ヲ命セラレタルトキハ其ノ命ニ從フヘク命ニ依リ又ハ偶然ニ敵ノ領域ニ着陸シタル場合ニ於テハ搭乘シタル傷病者、衛生人員及衛生材料並該航空機ハ引續キ特別ノ保護ヲ享ケ其ノ従業者ハ戦争ノ終了スル迄衛生勤務ニノミ使用セララルルコトヲ条件トシテ送還セラハヘキモノトス(第十八条)

(五)殊別記章及認識証明書ニ付

新条約ニ於テハ(イ)殊別記章トシテ特定ノ国ニ対シテハ赤十字ノ代リニ白地ニ赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽ヲ使用スルコトヲ得シメ(第十九条第二項)(ロ)殊別記章ハ特ニ平

時篤志救恤協会ニ於テ其ノ博愛事業ノ為内国法令ニ從ヒ又傷病者ノ無料救護所ニ於テ其ノ国ノ赤十字社ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スルコトヲ得ルモノトシ以テ右記章ノ濫用ヲ防キ(第二十四条第三項及第四項)(ハ)衛生人員ノ携帯スヘキ認識証明書ノ形式ヲ詳定シ衛生人員ノ記章及認識証明書ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ奪フヘカラサルモノトシ(第二十一条)(ニ)衛生上ノ移動部隊ハ必スシモ其ノ属スル交戦国ノ国旗ヲ掲揚スルヲ要セサルモノトシ(第二十二条第一項)(ホ)交戦者ハ衛生上ノ部隊及營造物ヲ表示スル殊別標章ヲ敵軍ニ明ニ認識セシムル為出来得ル限りノ手段ヲ執ルヘキモノトシ(第二十二条第三項)(ハ)交戦者ニ役務ヲ提供スル中立国ノ衛生上ノ部隊ハ自国ノ国旗ヲ掲揚スルコトヲ得ル旨ヲ定ム(第二十三条第二項)

(六)条約ノ適用ニ付

旧条約ニ於テハ交戦国ノ一カ締約国ニ非サルトキハ他ノ締約国ハ本条約ヲ遵守スルノ義務ナキモノトシタルモ新条約ニ於テハ交戦国中ニ非締約国アルトキト雖締約国間ニハ本条約ノ適用アルモノトス(第二十五条)

(七)特殊記章及瑞西連邦ノ紋章ノ使用ノ禁止ニ付

旧条約ニ於テハ赤十字ノ記章又ハ名称ノ濫用ヲ禁止シタルニ新条約ニ於テハ其ノ模倣ト認メラルル記章又ハ名称ノ濫用ヲモ禁止シ更ニ瑞西連邦ノ紋章又ハ其ノ模倣ト認メラルル記章ヲ商標又ハ其ノ要部トシテ使用スルコトヲ禁止シ締約国政府ハ右禁止ニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機関ニ提案スヘキモノトシ右禁止ノ法令ハ本条約実施後五年以内ニ之ヲ執行スヘキモノトシ本条約実施後ハ右禁止ニ反スル商標ヲ採用スルハ違法ナル旨ヲ定ム(第二十八条)

(八)条約違反ノ審査ニ付

新条約ニ於テハ条約違反ノ所為アリトノ主張アルトキハ一交戦者ノ請求ニ基キ関係当事者間ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ審査スヘク其ノ違反確認セラレタルトキハ交戦者ハ成ルヘク速ニ之ヲ止メ且之ヲ禁止スヘキ旨ノ規定ヲ設ク

(第三十条)

(九)条約ノ批准、加入又ハ廢棄ニ付

(イ)旧条約ニ於テハ一国ノ加入ハ他ノ諸国力異議ヲ述ヘサルトキ有効ナルモノトシタルモ新条約ニ於テハ斯カル制限ヲ除キ(第三十六条第一項)(ロ)新条約ニ於テハ批准、

加入又ハ廢棄ノ効力ノ發生時期ニ付特例ヲ認メ開戦前又ハ戦争中ニ為シタル批准又ハ加入ハ常則ニ依ラス直ニ其ノ効力ヲ生スヘク(第三十七条)又開戦前又ハ戦争中ニ廢棄ヲ為スモ本条約ハ常則タル廢棄通告ヨリ一年ノ期間満了後尚平和条約ノ締結ニ至ル迄引續キ其ノ効力ヲ有スルモノトス(第三十八条第三項)

(十)国際連盟トノ關係ニ付

新条約ニ於テハ条約ノ認証謄本ハ瑞西連邦政府ヨリ之ヲ国際連盟ノ記録ニ寄託シ其ノ批准、加入及廢棄ハ同政府ヨリ之ヲ国際連盟ニ通知スヘキ旨ノ規定ヲ追加ス(第三十九条)

本条約第二十八条ノ瑞西連邦ノ紋章又ハ其ノ模倣ト認メラルル記章ヲ商標トシテ使用スルコトヲ禁止シタル規定ニ関シテハ帝国政府ハ該禁止ハ寧ロ工業所有權保護同盟条約ノ条規ニ依リ之ヲ律スルノ妥当ナルヲ認メ本条約ニ於ケル右禁止ノ拘束ハ成ルヘク之ヲ減殺スルヲ可ナリトシ其ノ署名ニ際シ帝国全權委員ヲシテ帝国ハ右ノ条項ニ主義上賛同スルモ条約実施後五年以内ニ右禁止ヲ施行スヘキコトノ制限ハ之ヲ受ケス且帝国ニ於ケル右ノ禁

止ハ其ノ施行前ニ使用又ハ登録セラレタル紋章及記章ニハ及ハサルモノト了解スル旨ノ留保ヲ為サシメタリ而シテ茲ニ該留保ヲ存シテ右条約ヲ御批准アラセラレムトスルモノナリ

帝国全権委員カ本条約ニ署名シタル後今ヤ既ニ約五年ヲ経過シ内閣ニ於テ其ノ御批准ヲ奏請スルコトノ遅延シタルハ当局ノ説明ニ依レハ本条約ト関連アル工業所有権保護同盟条約ノ処理ノ遅レタルト本条約ト同時ニ議定セラレタル俘虜ニ関スル条約ノ審議ニ年月ヲ要シタルトニ職由スルモノナリト言フ

接スルニ本案ノ条約ハ人道主義ニ基キ博愛精神ヲ旨トシ能フ限り戦争ノ惨禍ヲ輕少ナラシムル目的ヲ以テ戦地軍隊ニ於ケル傷病者及死亡者ノ保護ヲ厚ウスル為在来ノ赤十字条約ニ必要ナル改正ヲ加ヘ以テ其ノ目的ノ達成ニ一段ノ進展ヲ来サムトスルモノニシテ其ノ趣旨ニ於テ固ヨリ不可ナル所ナク其ノ条規モ亦大体ニ於テ支障ナキモノト認ム而シテ之カ署名ニ際シ帝国代表者ノ為シタル留保ハ別ニ不都合ノ廉ヲ認メス仍テ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス
昭和九年十月二十日

枢密院書記官長 村上 恭一
枢密院議長男爵 一木喜徳郎殿

(付 記 六)

十月二十四日枢密院本會議ニ於ケル大臣説明案
只今書記官長ノ報告セラレマシタ所ヲ補足旁々一言申上ケタイト存シマス

本条約カ所謂赤十字条約ナルモノデアリマスコトハ書記官長ノ審査報告書中ニモ説明ノアツタ通デアリマスカ御承知ノ様ニ目下第十五回国際赤十字會議カ東京テ開催中デアリマシテ同會議ノ議題中ニハ本件赤十字条約ノ批准問題モアリマスノテ會議主催国タル我国トシマシテ本条約カ今日本院ノ御承認ヲ得ルコトナリマスレハ非常ニ好都合ニ存スル次第デアリマス

次ニ本条約ノ御批准ヲ今日迄奏請出来ナカツタ理由ニ付テ申述ヘタイト思ヒマス

第一ニ本条約ハ一九〇六年ノ赤十字条約改訂ト俘虜ノ待遇

ニ関スル条約作成トノ両者ヲ目的トシテ招集セラレマシタ「ジュネーヴ」會議テ審議サレ両条約カ同時ニ同一ノ會議テ締結サレマシタカラ両者ニ付同時ニ御批准ヲ奏請ノコトトシ度イ意向デアリマシタカ俘虜条約ノ方ハ其ノ実施ノ為メニハ陸海軍刑法等改正ヲ要シマスルノテ慎重研究ノ必要アリ此ノ為メニ速ニ御批准ヲ奏請スルコトハ困難デアリマシタ

第二ニ此ノ赤十字条約第二十八条ニハ新ニ瑞西國ノ紋章保護ニ関スル規定カ挿入セラレマシテ同國ノ紋章ヲ商標等トシテ使用スルコトヲ禁止スルコトナリマシタカ一方我國ハ瑞西國ノ紋章タケヲ单独ニ且片務のニ保護スルト云フ様ナ措置ヲ執ルコトハ面白クナイト考ヘマシタハカリテナク他方一九二五年ノ工業所有権条約ニハ一般的ニ各國ノ國ノ紋章ヲ商標等トシテ使用スルコトヲ禁止スル旨ノ規定カアルノニ鑑ミマシテ右赤十字条約上ノ義務ハ工業所有権条約上必要ナ措置ヲ執ルコトニ依リマシテ果シ得ヘキモノト考ヘ右工業所有権条約ヲ我國ニ於テ実施スル見込カツイタ上テ赤十字条約ノ御批准ヲ奏請スルコトカ實際上適當ト認メ工業所有権条約ノ処理ヲ待ツテ居ツタノデアリマス

斯様ニ二ツノ理由カアリマシタカ俘虜条約ノ方ニ付テハ最

モ関係ノ深い陸海軍両省ノ方テ大体我國トシテハ之ヲ批准セナイ方カヨクハナイカトノ意見ノ様デアリマスノテ政府ト致シマシテハ赤十字条約ハ俘虜条約ト切離シテ今回手續ヲ進メルコトト致シマシタ又工業所有権条約ハ過日本院ニ御諮詢アリ加入ノ運ニ至リマシタノテ茲ニ本条約ノ御批准ヲ奏請スルニ至リマシタ次第デアリマス

(付 記 七)

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条約御批准ノ件

昭和九年十月二十四日(水)午前十時ヨリ宮中東溜ノ間ニ於テ天皇陛下臨御ノ下ニ戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」条約御批准ノ件枢密院本會議ニ上程セラル当日枢密顧問官並ニ各大臣及本件関係ノ政府側委員ノ出席スルモノ左ノ如シ

枢密院側 一木議長、久保田、富井、黒田、桜井、荒井、

河合、鈴木（貫）、石井、有馬、原、窪田、栗野、元田、鈴木（壯）、石塚、阪本、清水、藤澤、林ノ各顧問官（平沼副議長、金子、石黒、石原、石渡ノ各顧問官欠席）
村上書記官長、堀江書記官、武藤書記官

政府側 岡田首相兼拓相、廣田外相、林陸相、町田商相（大角、後藤、小原、藤井、山崎、松田、内田ノ各大臣欠席）
法制局 金森長官、森山第一部長、佐藤（達夫）参事官
外務省 重光次官、栗山条約局長、小林条約局第一課長、結城事務官

陸軍省 永田軍務局長、日高書記官、原中佐
海軍省 吉田軍務局長、横山少佐
商工省 村瀬商務局長、中松特許局長官、安達特許局総務部調査課長、辻工務局工政課長
拓務省 副島殖産局商工課長

一本議長午前十時十五分開会ヲ宣シ別紙ノ通村上書記官長ノ審査報告アリタル後顧問官ト政府側トノ間ニ左ノ如キ質疑応答アリタリ

河合顧問官「本条約ノ改正ハ人道及世界大戦ノ経験ニ鑑ミ大イニ敬意ヲ払フヘキモノト思考ス然レ共斯カル条約ハ

ラサル如キ場合相手交戦国カ實際上加盟国ノ軍隊ト然ラサルモノトヲ區別スル上ニ困難アルハ事実ナリ然レ共人道の精神及世界大戦ノ経験ニ鑑ミ斯カル場合ニ於テモ本条約ヲ適用スルカ妥当ナリトノ見解ニ依リ旧条約第二十四条ハ新条約第二十五条ノ如ク改正セラレタル次第ナリ又仮ニ敵側中ニ本条約ニ加盟セサル国アリテ該国ノ軍隊カ残虐ナル行為ヲ為シタル場合相手国ハ報復手段ニ訴ヘ又ハ世界ノ輿論ヲ喚起シテ之ヲ防圧スル等ノ方法モアルヘク要スルニ政府トシテハ人道上ヨリ見テ新条約ノ規定カ適當ナリト思考スル次第ナリ」

河合顧問官「外務省ノ立場ヨリスレハ只今条約局長ノ御答弁ノ御趣旨ハ尤モナリト思考ス非締盟国トノ戦争ニ於テモ出来ル限り本条約ヲ適用スルハ人道上結構ノコトナリ然レ共軍ノ心理ヨリ考フルトキハ非締約国ノ軍隊カ残酷ナル行為ヲ為ストキ相手交戦国ハ其ノ軍隊カ報復の手段ニ出ツルコトヲ禁止スルコトハ困難ナルヘク斯クテ他ノ交戦国ニ対スル關係ニ於テハ条約違反ノ問題ヲ惹起スル惧アルヘシ第三十八条ノ規定ニテモ既二十分ナリト思考セラレ第二十五条ノ規定ハ行過キナリト思ハルモ陸海

其ノ規定余リニ緻密詳細ニ亘ルトキハ作戰ノ妨害トナルコトアリ又戦争ニ於テ最モ重要ナル敵愾心ヲ喪失セシムル惧アリ

本条約ニ於テ最モ重要ナル改正ハ旧条約第二十四条ヲ新条約第二十五条ノ趣旨ニ變更シタル改正ナリト思考ス即チ旧条約ニ於テハ交戦国カ全部加入シ居ルトキニノミ条約適用ノ義務アリトセルニ対シ新条約ニ於テハ此ノ理論ヲ翻シタリ二国間ノ戦争ノ場合ハ問題ナキモ多数国間ノ戦争ニ於テ敵側ニ条約ニ加盟セルモノト然ラサルモノトアリ且右諸国ノ軍隊カ混在スル場合相手方ハ加盟国ノ軍隊ト然ラサルモノトヲ區別シテ取扱フコトハ實際上困難ニシテ又作戰ニ支障ヲ来タス惧アルヲ以テ一国ニテモ加盟シ居ラサル場合ハ条約ノ適用ナシトスル旧条約ノ建前ノ方可ナリト思考スルモ如何尚条約作成ノ場合右ノ点ニ関スル審議ノ模様ヲ承リタシ

又第三条ノ局地的休戦ヲ協定スルコトモ作戰上支障アリト認ムルカ如何」
栗山条約局長「御質問ノ如キ場合即チ多数国間ノ戦争ニ於テ一方ノ交戦国中甲国カ本条約ニ加盟シ乙国カ加盟シ居

軍ノ立場ヨリ見テ支障ナシト思考スル次第ナリヤ陸海軍ヨリモ會議ニ代表者出席セルコトニモアリ条約締結當時ニ於ケル本条ノ審議振ニ付御説明アリタシ」

永田陸軍省軍務局長「敵國中ニ本条約ニ加盟セルモノト然ラサルモノトアル場合相手国ニトリ条約違反ヲ惹起シ又ハ作戰ノ妨害ヲ来タス等ノ惧アルヲ以テ条約調印ノ當時ニ於テ此ノ点ニ関シテハ充分考虑シタルモ博愛人道方面ニハ出来ル丈ケ尽力致度シトノ見地ヨリ本条約ニ賛同セリ

又第三条ノ射撃中止ノ協定モ實際上ハ困難ナル場合アラシモノ『事情ノ許ストキ』ナル制限アルヲ以テ出来得ル限り之ヲ行フ趣旨ト解シ敢テ反対セサリキ」

阪本顧問官「只今東京ニ於テ第十五回国際赤十字會議開催中ナリ此ノ際ニ本条約ノ御諮詢アリタルハ最モ時機ヲ得タルモノト思考ス折角今日御諮詢相成タルヲ以テ若シ御裁可遊ハサレタルトキハ右會議カ解散スル以前ニ御批准ノ旨ヲ公表シ得ル様手續ヲ進捗シ得レハ極メテ好都合ナリト思考スル処政府ノ見解如何」

廣田外務大臣「第十五回国際赤十字會議ノ開會中ニ本院ニ

御諮詢相成り御審議ヲ願ヒ得タルハ誠ニ結構ナリ又只今ノ御希望ノ点ハ之ニ添フ様ニ致度シト考ヘ居レリ
尚本条約ノ署名後長日月ノ間御批准ヲ奏請シ得サリシ事情ニ付先程書記官長ノ御報告中ニ申述ヘラレタル所ヲ補足申上タシ

先ツ本条約ハ一九〇六年ノ赤十字条約ノ改訂及俘虜ノ待遇ニ関スル条約ノ作成ノ両者ヲ目的トシテ招集セラレタル「ジュネーヴ」會議ニ於テ審議セラレ兩条約カ同時ニ同一會議ニ於テ締結セラレタル故兩者ニ付同時ニ御批准ヲ奏請スルコトト致度キ意向ナリシモ俘虜条約ニ付テハ其ノ実施ノ為ニハ陸海軍刑法等ノ改正ヲ要スルヲ以テ慎重研究ノ必要アリ之カ為速ニ御批准ヲ奏請スルコト困難ナリキ

次ニ本件赤十字条約第二十八条ニハ瑞西國ノ紋章保護ニ関スル規定新ニ挿入セラレ同國ノ紋章ヲ商標等トシテ使用スルコトヲ禁止スルコトナリタルカ一方我國ハ瑞西國ノ紋章ノミヲ单独ニ且片務的ニ保護スルカ如キ措置ヲ執ルコトハ好マサルノミナラス他方一九二五年ノ工業所有權条約ニハ一般的ニ各國ノ國ノ紋章ヲ商標等トシテ使

用スルコトヲ禁止スル旨ノ規定アルニ鑑ミ右赤十字条約上ノ義務ハ工業所有權條約上必要ナル措置ヲ執ルコトニ依リ果シ得ヘキモノト考ヘ右工業所有權條約ヲ我國ニ於テ実施スル見込ノツキタル上ニテ赤十字条約ノ御批准ヲ奏請スルコトカ實際上適當ト認メ工業所有權條約ノ処理ヲ待チ居タル次第ナリ

右ノ如ク二ツノ理由アリタルモ俘虜條約ニ付テハ最も關係深キ陸海軍兩省ニ於テ大体之ヲ批准セサル方宜シカルヘシトノ意見ナルヲ以テ政府トシテハ俘虜條約ト切離シ赤十字條約ノミニ付手續ヲ進ムルコトセリ

又工業所有權條約ハ過日本院ニ御諮詢アリ加入ノ運ニ至リタルヲ以テ茲ニ本條約ノ御批准ヲ奏請スルニ至リシ次第ナリ宜シク御審議ノ上御決定ヲ願タシ

一本議長ハ質問モ最早ヤ無キモノト認ムトテ採決ニ付シ全会一致ニテ可決セラレ十一時閉會ス

(昭和九年十月二十四日水曜日結城事務官記)

3 米国の常設国際司法裁判所加盟問題

485

昭和3年5月25日 在米國松平大使より
田中外交大臣宛

米国の常設国際司法裁判所加入問題に関する

決議案上院外交委員会へ提出について

付記 昭和一〇年一月条約局稿

「アメリカ合衆國ノ常設國際司法裁判所加入問題ニ関スル研究」(抜粋)

普通公第二八〇号

(6月18日接受)

昭和三年五月二十五日

在米

特命全權大使 松平 恒雄 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

米國ノ國際司法裁判所加入問題ニ関スル上院

決議案ノ件

米國ノ國際司法裁判所加入問題ハ一昨年十一月十一日「カ
ンサス・シチー」ニ於ケル「クーリツヂ」大統領ノ演説(同
年往電第二〇六号)ヲ以テ一応終結セルモノト一般ニ看做

サレ爾來本件ニ関シ格別議論等モナカリシ処今期議會開會セラルルヤ「マサチューセツト」州選出共和黨上院議員「ヂ
レット」ヨリ本問題ニ関シ既加入國トノ間ニ更ニ意見ノ交換ヲ行ハムコトヲ大統領ニ提言スル趣旨ノ上院決議案(別
紙同決議案参照)ノ提出アリタリ

然ルニ右決議案ノ提出ハ一般ニ意外ノ感ヲ与ヘタルモノノ如ク新聞紙等ニテモ紐育「ウォールド」其他予テ加入論ヲ高調シ居ルモノノ外ハ該提案ノ動議ハ内政上ノ理由ニ出テタルモノナルヘシトナシ(例ヘハ「ヂレット」カ「フーバー」ノ大統領立候補ヲ支持シ居ル關係上右提案ハ該選挙戦ニ際シ加入論者ノ甘心ヲ買ハムカ為ニナサレタルモノナリトノ觀測ヲナスモノアリ)比較的冷淡ナル態度ヲ示シ居ル処上院外交委員会ハ四月九日ニ至リ初メテ本決議案ヲ上程シ其ノ際「ボラー」委員長ハ米國上院ハ同國留保第五項ヲ變更スル意向ナカルヘク外國側ニテ米國ノ加入ヲ望マハ右留保ヲ其儘承諾スヘキノミトノ趣旨ヲ述ヘ其他ノ多数委員モ同案ニ反対ハ頗ル氣乗セサル模様ナリシ由ナルカ五月二十